

地域公共交通に関する経過及び地域公共交通検討委員会の審議経過について

平成 29 年 7 月 14 日

京阪バス株式会社より「南星台関連系統の路線廃止」の路線の見直し計画が出される。

平成 30 年 2 月 16 日

第 1 回地域公共交通検討委員会

○ 諮 問

- ・ 路線バスの維持継続方策について
- ・ 交野市内における公共交通体系のあり方について

○ 交野市における公共交通に関するあり方について

- ・ 公共交通に関する基礎知識 〈猪井副委員長より講義〉
- ・ 交野市の地域公共交通の現状

▽ 委員会での主な意見

- ・ 路線バスと概ね同じルートをゆうゆうバスが無料で運行していることが問題である。
- ・ 路線バスの維持・継続については、路線バスとゆうゆうバスの兼ね合いの解決が不可欠である。
- ・ ゆうゆうバスを使っている人にとっては、便利で良いものととらえている。

平成 30 年 6 月 1 日

第 2 回地域公共交通検討委員会

○ 南部地域〈妙見坂・妙見東・南星台〉による路線バス・ゆうゆうバスに関するアンケート調査結果〈3 地区全戸配布 一世帯 2 通 回収率 54%〉

○ ゆうゆうバスの利用実態

〈ゆうゆうバスの委託業者である京都京阪㈱による説明〉

○ 地域公共交通のあり方

〈コミバスと民間路線バスとの競合事例の紹介〉

○ 地域公共交通の課題と改善

▽ アンケート結果や主な意見

- ・ ゆうゆうバスの必要性については、「自分には必要ないが高齢者には必要」や、「現在は必要ないが、将来的には必要」との回答が多い。
- ・ ゆうゆうバスを不要と考える理由では「市の財政が心配だから」「税金の無駄遣いだから」という市税に関する回答が多く見られた。
- ・ ゆうゆうバスを利用する理由の第一は「無料だから」第二は「バス停が近い」
- ・ ゆうゆうバスの利用頻度は低い
〈週に 3～4 日程度以上使う方は 5%に満たず、月に数回以上使う方も 2 割未満〉

平成 30 年 11 月 2 日

第 3 回地域公共交通検討委員会

○ 高齢者・障がい者の外出状況の把握に関するアンケート調査結果

〈市内 65 歳以上の高齢者及び障がい者約 25,000 人を対象者に無作為 2,124 人にアンケートを実施。回収率は 52%〉

- ・ ふだんの移動、健康・交流

○ 今後の地域公共交通のあり方について

- ・ 「ゆうゆうバスの廃止も含めた既存の外出支援の見直しをおこない、今後の外出支援のあり方については、別途委員会を立ち上げるなどにより検討を進める」ことについて、委員全員一致で原案のとおり承認。

▽ 委員会での主な意見

〈今後のゆうゆうバスのあり方〉

- ・ ゆうゆうバスは、経路地が多く、利用者にとって非常に利用しにくいいため、廃止すべきである。
- ・ ゆうゆうバスを廃止した場合、路線バスがどのような運行となるのかをあわせて整理する必要がある。
- ・ 今後の地域公共交通のあり方を考えるには、まず「ゆうゆうバスをどうするか」を決めなければならない。

〈今後の地域公共交通のあり方〉

- ・ 路線バスとゆうゆうバスとの競合から生じた問題をきっかけとして、市内の公共交通網のあり方を考えたい。
- ・ 市全体の路線バス運営維持継続のため、まちづくりを含めて考えていくことが望ましい。
- ・ 外出支援の方向性は、現在のゆうゆうバス利用者を踏まえ検討。

平成 31 年 3 月 25 日

第 4 回地域公共交通検討委員会

○ 答申(案)について

- ・ 答申(案)については、「異議なし」で原案どおり承認。

○ 今後の検討について

- ・ とりまとめた答申をもとに、市の方向性を示す。
- ・ 今後も地域公共交通の維持について、引き続き議論を続けたい

平成 31 年 3 月 27 日

交野市地域公共交通検討委員会より諮問に対する答申を受ける